

十島村教育委員会だより 令和6年12月号

# さわやかトカラ情報

十島村教育委員会  
〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号 TEL 099-227-977

## 【師走(12月)に1年を振り返って】

十島村教育委員会教育長 木戸 浩

12月になりますと、誰しも心せわしくなってくる時期です。クリスマスというイベントや、年末の大掃除、年賀状の準備、新年を迎える準備等各個人によってそれぞれ異なるとは思いますが、慌ただしく感じるのは誰しも同じではないでしょうか。

子どもの頃は新年がやってくることを待ち遠しく感じるものでした。10歳の子どもにとっての1年間は10分の1です。60歳の人にとっては60分の1です。同じ1年でも長く感じたり、短く感じたりするのはこの厚みの違いではないかと感じています。

師走は教師(先生)が忙しく走り回るから師走と思われているかもしれませんが、昔は年末にお坊さんが多くの檀家に、お経を上げて回らないといかなかったのが忙しかったということで、お坊さん=師と捉えられていて、師走という呼び方が付けられたようです。

さて、各学園では新たに義務教育学校となり、9年間を通して一貫した教育が行われています。1年間の3分の2が過ぎようとしているところです。成果や課題については、まだまだこれからですが、9年生(中学3年生)にとっては、年が明けると直ぐに入試がやってきます。生徒はその目標に向かって日々頑張っています。そして、9年生担任ばかりでなく、前期課程の教職員も含めて授業中はもちろん、放課後等にも受験対応の学習をサポートしています。全国各地から来ている、山海留学生の中には私立高校の入試が年明けから始まる生徒もいます。入試に間に合うようにどの島の9年生は遅くとも2週間前までのフェリーで上鹿するようにしています。

残りわずかな12月ですが、今年1年を自分なりに振り返っていただき、反省ばかりではなくよかったことや実績としてやり遂げたことに満足して、自己肯定感を高めていただければと思います。

それでは、皆様佳いお年をお迎えください。

### 人権講演会の開催について

1月7日(火) 午前9:50~11:30生涯学習県民大学講座と連携した講演をテレビ会議で開催します。各学園で視聴できます。事前申込みがなくても当日参加できます。

### 【演題】

子ども基本法から1年 ~子どもの権利に基づいた教育と子育て~  
講師 国際子ども権利センター代表理事 甲斐田 万智子

ファミリー劇場(宝島会場) ポッチャ体験(口之島会場)



県立博物館講座



## 十島村で学ぶ

### 【島で得た経験】

諏訪之瀬島学園 9年 濱田 千明

私は4月から学園の最高学年になりました。総合的な学習の時間での壁画作成や交流学习、体育大会や文化祭などさまざまな行事や学習が行われてきましたが、いよいよ受験が近づいてきました。今、目標を達成するために頑張っています。

9月に体育大会が開催されました。毎年、最高学年が団長になることになっています。諏訪之瀬島の9年生は4人おり、私よりもしっかりとした人が多く、私は今まで積極的に動いてはいませんでした。今年は私が赤組の団長になりました。団長はリーダーなので「何もしていません」というわけにもいかず、何とか団員を引っ張ろうと気合いを入れて練習に取り組みました。

いざ応援の練習が始まると「団員のやる気のもたせ方や声かけ」や「演舞の教え方」が全くわからず、練習がうまくいきませんでした。そんな中で、少しずつ「こういうときはどうすべきか」ということを考え取り組んでいきましたが、気付いたら本番でした。最後まで団員を戸惑わせてしまって、ようやく私には計画性と実行力が不十分で、つまりリーダーシップを十分に発揮できなかったと感じました。

生徒の多い学校であれば、このような経験はできなかったかもしれません。体育大会の団長という貴重な経験からいろいろ自分を知ることができたので、諏訪之瀬島でよかったと思います。私はこの経験は通して、受験に向けて、計画的に学習し実行しています。受験までもう少しです。精一杯努力して合格できるように頑張っていきたいと思っています。

令和6年11月14日 南日本新聞「若い目」

ママは学校できゆうしよくをつくって  
います。パンをつくる人です。  
いえにかなると、ママがパンをつく  
ていました。つぎの日にきゆうしよく  
ピザドッグをだすためです。ママはとき  
どき、こうやって、おいしいパンをつくる  
ためにいえでれんしゆうをしています。  
いいおくりがしてきました。しゆくだ  
いがおわると、ママがピザドッグをたべ  
させてくれました。  
パンは、たまごをぬらなかつたので白  
いろでした。タマネギとケチャップをあ  
わせたりソースをくってくれました。も  
ちウ  
インナーもはさんでありました。もち  
ろんパンはママの手づくりです。  
「おいしい」と大きな声でいいいま  
し。  
おんがふわふわで、ウインナーいま  
し。  
パンがふわふわで、とてもおいし  
かったです。ほんばんもたのしみです。

ママのピザドッグ

平島学園 一年  
日高 宇美

落ち葉  
夏がすぎ  
落ち葉パラパラふっている  
落ち葉近くの男の子  
カシヤカシヤ  
クシヤクシヤ  
楽しそう  
リズたちは  
落ち葉のふとんで  
ねむってる  
あったかそう



小宝島学園三年  
小谷 兼之佑

子供のうた  
(十一月五日  
南日本新聞掲載)

### 【口之島学園からのメッセージ】

口之島学園 教諭 吉本拓男

2023年は、AI元年と呼ばれる年だった。絵や音楽、小説など才能と表現する力をもった人たちが、努力と経験を積んで作品を作ってきたものが、クラウド上で気軽に作られる時代だ。それにもないフェイクと呼ばれるものが、時にはスタンダードとして世の中に出ていく弊害がある。

児童生徒は、毎年スケッチ大会があって、それぞれのお気に入りの場所へ行って絵を描いている。昨年は学校内で描く生徒が多かったのだが、今年は遠くまで行って島の風景を描く生徒もいた。スケッチ大会前、当日雨のことも考え描く場所を下見に行く機会があった。生徒が連れて行ってくれた場所は、私が1年島で暮らしても1度も行ったことが無い所が多かった。そこは、大人なら絶対にいかないだろうという場所があったり、逆に、あそこから先は絶対に行っちゃいけないんだと大人から教えられたというゾーンもあったりした。その子にとってその風景は、島で暮らしている中で絵にしたいぐらい印象に残っている風景なのだろう。大人になって何十歳になっても思い出す原風景になるのだろうか。

これからの時代、バーチャルの世界でも生きていくみんなにとって、必要なことは、嘘を見抜く力だろう。それは難しいことのように思えるが、自分が本物を見聞き体験したものは、揺るぎないだまされようも無いことだ。この十島で、自分で、本物を見て触って体験して、私も洞察力を身に付けていきたい。

### 『教職員仲間であるあなた』への 私からのメッセージ

各島の美しい風景や行事など、写真やいろいろな新聞で拝見しています。気軽に全島を回ることができないことが残念です。それこそ何年後かにメタバースの十島で出会えるかも知れません。

### 【平島学園からのメッセージ】

平島学園 教諭 北山 朗

この世に存在する「タイセツ」なものは、目には見えないものも多いように思えます。その中でも、私が強くそう感じることは、人との「縁」です。平島に赴任して2年が経とうとしていますが、小さなこの島においても、先生方、児童生徒、保護者含め地域の方々など、多くの出会いを重ねながら生活しています。

先日、平島学園の研究公開が終わりました。「チーム平島」のまとまりの良さをお見せできたのではないのでしょうか。その他、運動会や学習発表会など、様々な行事の成功の裏には、職員の団結力はもちろんのこと、児童生徒の一体感、地域の方々の支援が欠かせません。今この瞬間をともに過ごす人同士のつながりこそが、目には見えない大きな力を生んでいるのだと思います。

「人間は一生のうちに逢うべき人には必ず逢える。しかも、一瞬早過ぎず、一瞬遅すぎない時に」これは、いつも私が心に留めている言葉です。人の出会いに意味があり、その出会いは目には見えない「縁」に引き寄せられていることを教えてください。各学園においても、人と人のつながりによって成り立っています。その連鎖を集積すれば、十島村の教育にしか生み出せない大きな成果があると信じています。今後も平島に赴任した意味を考えつつ、私ができることを一所懸命に取り組んでいきたいです。

### 『教職員仲間であるあなた』への 私からのメッセージ

冬休みまであと少しです。ラストスパートをかけて、年末年始はたくさんリフレッシュしましょう。2025年が先生方にとって素晴らしい年となりますようお祈りします。